

●臨床施設からの報告—ITの臨床的有用性と技術進歩

5. 三井記念病院における 動画ネットワークを用いた心臓疾患 の診断から治療戦略決定までの実際

阿佐美匡彦

三井記念病院循環器内科

当院は、東京都千代田区と台東区の境にあり、近隣の地域医療を担っている総合病院である。特に循環器内科は東京都CCUネットワークに参加しており、日夜、循環器疾患が疑われる患者の診療を行っている。そのような中で、当院は2009年1月に新病棟がオープンし、瞬く間に6年が経過した。当科は、シネアンギオシステムや心エコーなどの動画モダリティと、一般撮影、CT、MRI、RIなどの多数の静止画モダリティを駆使して診療を行う特性のある診療科であるため、新病棟へ移行する際に、それらのシステムをどのように

したらうまく利用できるか、前循環器内科部長で現・副院長の原 和弘先生、現・循環器内科部長の田邊健吾先生を中心に入念に検討・準備がなされた。そこで導入されたのが、東芝社の動画ネットワークシステムである「CardioAgent Pro」(以下、CardioAgent)と、静止画を保管・管理するPACS「RapideyeCore」(以下、PACS)である。

本稿では、当院におけるネットワークシステムの概要と、CardioAgentのデータベースを含めた循環器疾患の診断および治療における実際の運用法を紹介する。

● 当院におけるネットワークシステムの概要

当院ではIBM社製の電子カルテを採用しているが、CardioAgentおよびPACSはいずれも電子カルテと連携しており、検査後スムーズに電子カルテ端末で静止画のみならず動画の閲覧が可能である(図1)。当院ではシネアンギオシステムとして、カテーテル室に経皮的冠動脈形成術(percutaneous coronary intervention:PCI)やカテーテルアブレーションを行うために2台(図2)、

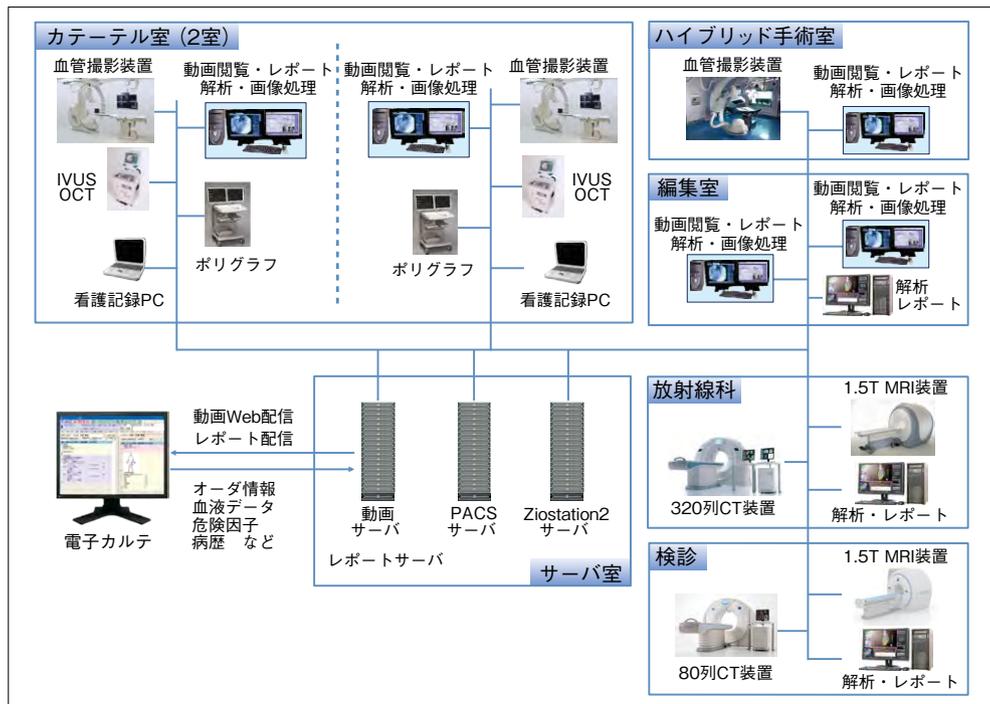


図1 当院におけるネットワーク図